

関東にもアイヌ民族は暮らしている

22年間アイヌ民族の取材を続けています。今回の写真は、1992～2014年に東京周辺で撮影したものです。撮影を始めた頃、私は「アイヌ民族＝北海道」だと思っていました。ところが、実際には、関東にも少なくとも5000人のアイヌ民族が暮らしていると知られています。それを知ってから自分が住んでいる東京周辺のアイヌ民族を伴走者のように傍らで記録してきました。

その間、国連総会で「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が日本も賛成票を投じて採択され、2008年6月6日には、「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が国会で採択されました。社会は大きく変わったとも言えますが、全く変わっていないようにも思えます。相変わらず、学校教育でアイヌ民族について学ぶ機会は、ほとんどありません。「アイヌとして生きたい。アイヌを表現したい」と思っても、自分がアイヌを名乗ることで、アイヌであることを隠したい親類の動揺を思うと怖くてできない、というような事が今でもあります。自分たちと違う価値観を持つ先住者を勝手に「野蛮」「劣等」と決めつけ、同化を強いてきた国のやり方が、アイヌが自然にアイヌでいられる社会ではなくしてはいます。

アイヌというアイデンティティを持ちながら、日本人であることを背負わされたアイヌ民族の状況をタイトルに込めました。都市の住民として暮らすアイヌ。その中で受け継がれる精神文化。伝統と創造。堂々と今を生きる等身大のアイヌ民族の姿を伝えたいと思います。

宇井真紀子

写真家・宇井真紀子(ういまきこ)

1960年、千葉県生まれ。武蔵野美術大学、日本写真芸術専門学校卒業。

在学中より写真家・樋口健二氏に師事。

1992年、子供を連れてアイヌ民族の取材をはじめ。

第4回さがみはら写真新人奨励賞受賞。

第28回東川賞特別作家賞受賞。

現在、「プロジェクト My portrait Myself」進行中。

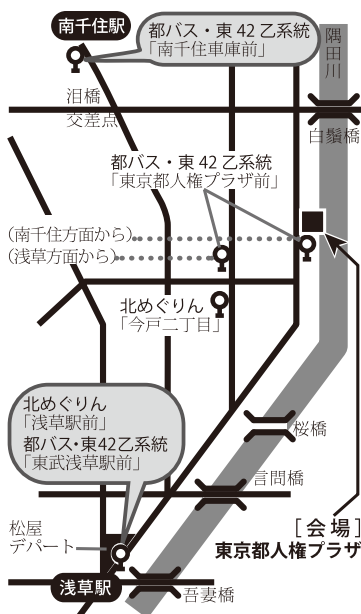
写真集『アイヌときどき日本人』(2009年)、『アイヌ、風の肖像』(2011年)他。

公益社団法人日本写真家協会会員。日本ビジュアル・ジャーナリスト協会会員。

日本写真芸術専門学校講師。武蔵野美術大学非常勤講師。

ウェブサイト <http://www.makikoui.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/uiouen>



■アクセス

浅草方面から

- ・都営バス 東42乙系統「南千住車庫前」行
東武浅草駅前→東京都人権プラザ前下車 350m
- ・台東区循環バス
北めぐりん(15分おき)①浅草駅→⑥今戸二丁目下車 350m

南千住方面から

- ・都営バス 東42乙系「浅草雷門」行
南千住車庫前→東京都人権プラザ前

■お問い合わせ

公益財団法人東京都人権啓発センター

〒111-0023 東京都台東区橋場1-1-6 (東京都人権プラザ内)

TEL 03-3876-5372 FAX 03-3874-8346

E-Mail tenji@tokyo-jinken.or.jp

